

## 講義レジュメ

講 師 水谷 修

内容・テーマ

期 日 2018年5月24日パネルディスカッション生涯学習センター等のさらなる価値向上のために

## 1 ねらい

生涯学習センター等がさらなる価値向上を図るためには、どのような取組が必要となるのかについて、事例発表を聞くことで理解するとともに実践に役立つ示唆を得る。

## 2 展開

## (1) 事例発表を聞くポイントについて (コーディネーター 水谷修)

中央教育審議会答申「生涯学習の基盤整備について」において、多様な機能を備えた「総合型」の生涯学習センターの設置が提唱された平成2年当時と比べ、生涯学習センターを取り巻く環境が変化したことなどから、今日では機能を重点化し「専門型」をめざすセンターも多い。また、その機能、例えば多くのセンターが従来から担ってきた学習機会の提供についても、地域の課題に対応した新たな学びのための取組が模索され実践されるようになってきた。学習成果の評価・活用についても、学びと活動の循環を推進する上でこれまで以上にこの機能が重要視されるようになってきている。このような地域の課題に対応した新たな学びや学びと活動の循環は、言うまでもなく一施設の取組で実現できるわけではなく、施設・機関間の連携・協力が不可欠であり、生涯学習センターが他の施設・機関と連携したり、地域の施設機関間の連携を促進するよう期待される。

生涯学習推進の機能を備えた大学のセンターと自治体の生涯学習センターの連携・協力はその一つである。地域の実情に応じ、地域の課題解決に取り組み、講座を開設したり、学習プログラムの開発を行うなど、地域との密接な連携を図ることが期待されている大学のセンターと、自治体の生涯学習センター等とはどのような連携・協力が可能なのだろうか。

これらのポイントを含め、3つの事例から、今日の生涯学習支援センターに期待される実践について考えるための手がかりを得たいと思う。

## (2) 事例発表「生涯学習センター等の現状」

3つの生涯学習センター等から、設立の経緯や運営・取組等の現状、成果、課題、今後の方向性などについて紹介していただく。

## ① 5つの生涯学習センターを核とした生涯学習推進 (茨城県教育庁 照井康郎氏)

県内5地域に1館ずつある生涯学習センター設立の経緯と現状、新たな生涯学習推進の機能・役割、特徴的な取組、これまでの成果と課題、今後の方向性などについて

## ② 広島県立生涯学習センターの現状について (広島県立生涯学習センター 加藤浩司氏)

専用の施設を備えずに運営をすることになった経緯と現状、時代のニーズに合わせた特徴的な取組、成果と課題、今後の方向性などについて

## ③ 高知大学の地域課題への取組 (高知大学地域連携推進センター 吉用武史氏)

県内7カ所のサテライトオフィスの設立の経緯と現状、他機関との連携体制や特徴的な取組、成果と課題、今後の方向性などについて

## (3) 総括 (水谷修)

事例を通して見出された、生涯学習センター等がさらなる価値向上を図るために必要な改善のポイント、取組などについて

## (4) 受講者へのメッセージ (照井康郎氏、加藤浩司氏、吉用武史氏)

## 〔参考文献〕

- 1) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 生涯学習推進センター等の新たな役割に関する調査研究報告 平成22年3月
- 2) 生涯学習分科会企画部会 『意見のまとめ』 平成28年12月